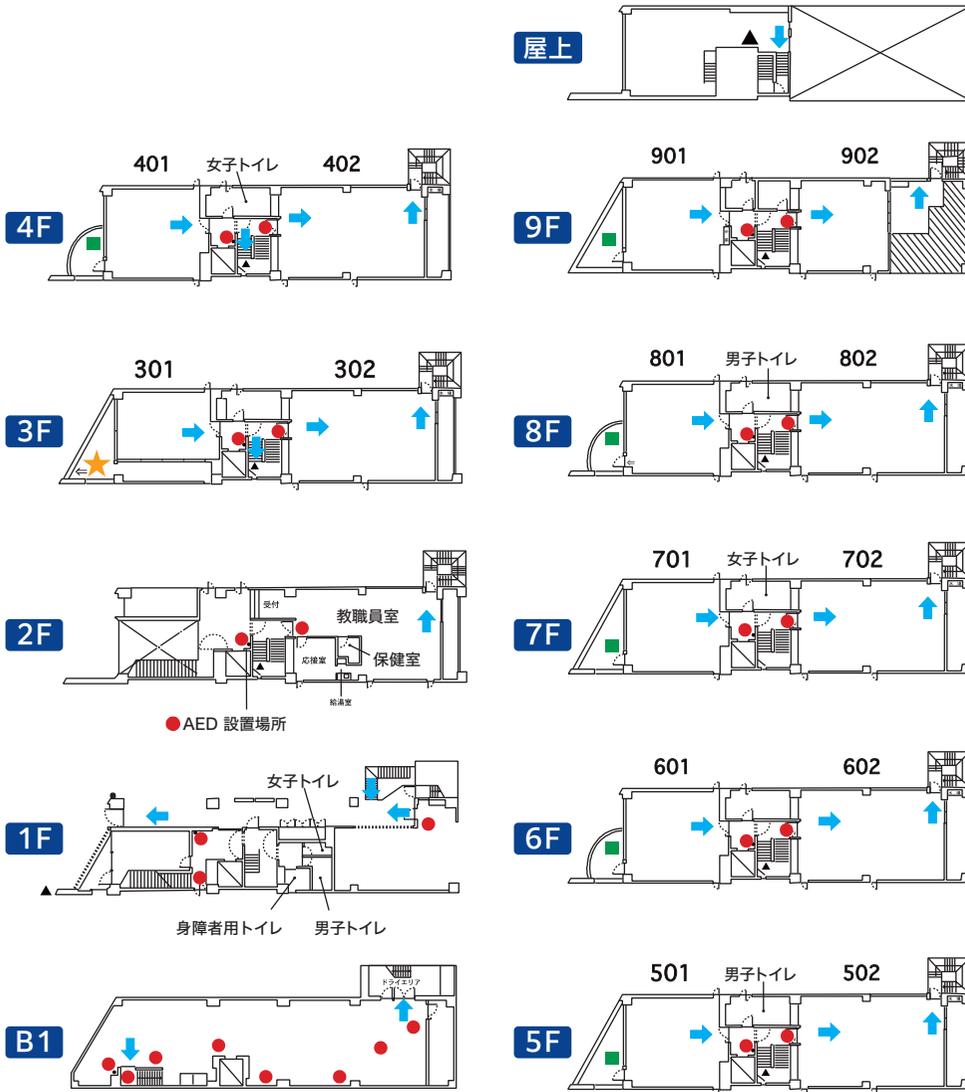
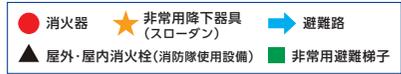


■消火器等の配置図及び避難経路図



防災マニュアル

[学生用]



[目次]

発災時と直後	01,02
避難したら	03,04
資料①事前に準備しよう	05,06
資料②災害伝言板サービス	07,08
資料③避難設備・避難器具	09,10
	11,12
資料④救命処置	13,14

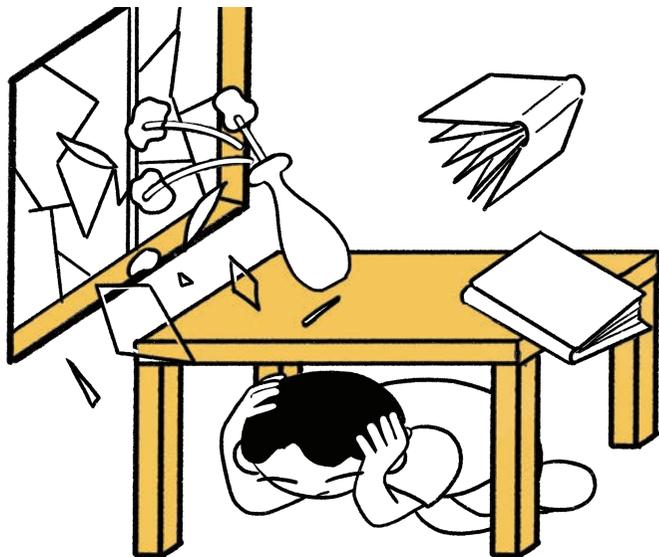
本物にふれる 本当の力をつける



TEL : 03-3986-1981 E-Mail : sokei@sokei.ac.jp

！地震災害発生

揺れが収まるまで身の安全を確保。その後、安全を確認しつつ避難。



[発災時・直後]

●校内にいる場合

- ・非常口やドアを開放し、避難路を確保する。
- ・速やかに火の始末をし、電気器具の電源は切る。

●周囲に窓がある場合

- ・窓や倒れやすいものから離れ、頭上からの落下物に注意する。
- ・机など身を隠せるものの下へ入り、机脚に掴まり体勢を安定させる。
または、衣類やカバンで頭部を守る。

●エレベーター内にいる場合

- ・アラート(携帯緊急速報)が鳴ったら、すぐに近くの階で停止。
速やかに降りる。

[通学中・校外で災害が発生した場合]→P04へ

揺れが収まったら・・・



[避難]

●避難開始

- ・校内放送の指示に従い、情報を正確に把握して避難開始。
※停電している場合は誘導灯を目印にする。
- ・不要なものは持たず、両手が使える状態で行動。
※火災発生時は初期消火に努め、
ハンカチや服の袖を鼻と口にあてながら、身をかがめて避難。
- ・ドアや窓は開けたまま避難。(火災が発生した場合は閉める。)

[避難設備・避難器具]→P09へ

●避難行動中

- ・落下物や壁の倒壊などから頭部を守り、
ガラスの散乱、地面の亀裂、陥没、倒壊、階段では足元に注意。
- ・エレベーターは使用せず中央階段、あるいは非常階段を使用。
※災害時にはエレベーターは停止する。
- ・負傷した際には大声を出すなどして救助を求め、
負傷者がいた場合、救護を行う。

避難したら・・・



【一時避難(西池袋公園/校舎)】

●西池袋公園

- ・教職員の指示に従い、私語を慎む。
- ・学年、専攻ごとに集まり、点呼確認を受ける。
- ・校舎内確認が済み、安全が確認された場合は校舎内へ移動。

●校舎内の安全が確認された場合、校舎へ移動

(もしくは広域避難場所「立教大学」へ避難した場合)

- ・教職員が知らない情報は逐一、速やかに報告する。
- ・3階、4階、5階を使用。2階教職員室は災害対策本部になる。
- ・避難先のアトリエを離れる際は、短時間であっても逐一教職員へ報告し、一人では行動しないこと。(トイレ等含む。)
- ・教職員の指示があるまでは自己判断で帰宅せず、帰宅する際には報告をする。
- ・帰宅困難な場合は教職員の指示に従い、学校にとどまること。

【家族との連絡】

●家族間での安否確認

- ・各自家族と連絡を取り、教職員へ報告する。
※電話は混線状態で繋がらない恐れがあるため、あらかじめ連絡方法を決めておく。【災害伝言板サービス】→P07へ

【帰宅】

●許可を取り帰宅

- ・必ず教職員の許可を取る。
- ・道路の亀裂、陥没、段差、電柱や塀の倒壊に注意する。
- ・ターミナル駅や繁華街など、人が集中する場所を通らない。
- ・「帰宅支援ステーション^{*}」を活用
※コンビニ、ファーストフード店、ファミリーレストランなどのこと。
水やトイレの利用、情報提供を受けられる。

【通学中・校外で災害が発生した場合】

- ・周囲の被害状況を正しく把握し、警察や消防の指示に従う。
- ・Googleフォームで安否確認を学校に送信する。
※現在地から移動する場合は、避難目的地を必ず入力。
目的地到着時も、このフォームから学校に報告すること。



◀緊急時安否確認用Googleフォーム(創形)
※目的地到着時の報告も同じフォームを使用。

事前に準備しよう

災害に備えて今、できることをしておこう

【情報の確認】

1.防災マニュアルを熟読する

- ・避難場所は？
- ・避難経路、消火器、避難具などの設置場所は？
- ・学校への連絡方法は？

2.家族で決めておく

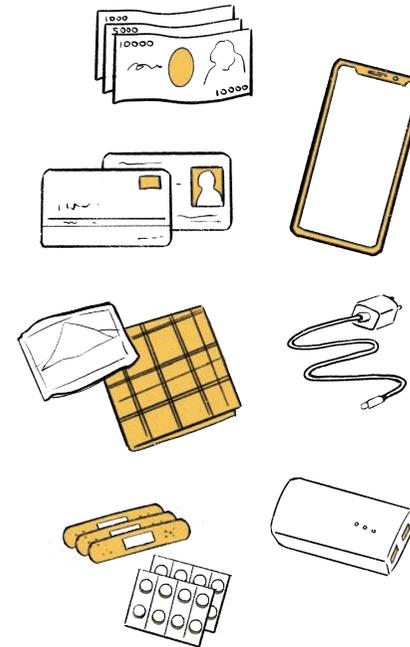
- ・連絡手段は？
- ・家族での待ち合わせ場所は？
- ・伝言サービスは？

3.スマートフォンの準備

- ・「緊急速報」をONにしておこう
- ・「緊急SOS」と「メディカルID・緊急情報」を知ろう

【持ち物確認】

常に持ち歩いておくもの



- ・現金
- ・身分証明
- ・ティッシュ
- ・ハンカチ
- ・絆創膏
- ・常備薬
- ・スマートフォン
- ・充電用ケーブル/充電器
- ・小型ライト
- ・キャッシュカード
- など

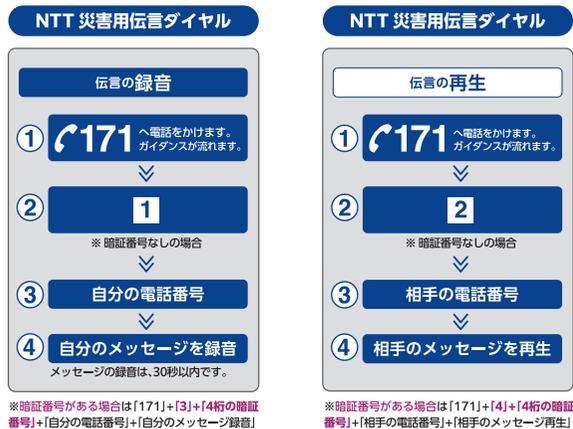
家で準備しておくものなど家族間でも確認しておきましょう。
一人暮らしの人も、それぞれの住まいで準備しておきましょう。

災害伝言板サービス

家族で決めておこう

[NTT(音声による伝言)]

NTTでは下記の手順で音声録音伝言サービスを提供している。



[携帯電話各社]



NTT docomo

<http://dengon.docomo.ne.jp>



KDDI (au)

<http://dengon.ezweb.ne.jp>



SoftBank / Y! モバイル

<http://dengon.softbank.ne.jp>

災害時のみ
開設されるボコ。
事前登録が必要な
場合があるので、
あらかじめ調べて
おこうボコ！



[Google・Yahoo!など]

災害発生時には主要な検索エンジンからリンクが張られ、インターネット上に安否情報を登録・検索できるサービスが提供される。

[参考サイト]



東京都防災ホームページ

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/>



気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



消防庁ホームページ

<https://www.fdma.go.jp/>



国土交通省ホームページ

<https://www.mlit.go.jp/>

[学校への連絡]

災害時、学校への連絡を忘れずに。



緊急時安否確認用 Google フォーム (創形)

<https://forms.gle/VmG2ahYCHxJC5pNFA>

避難設備・避難器具

いざという時のために知っておこう

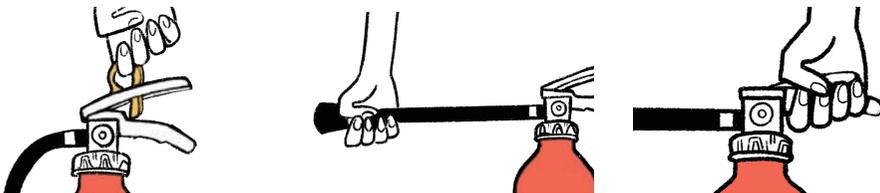
[消火器の使用方法]

消火器には粉末、ハロン、強化液等があるが、同じ方法で使用できる。

創形では各階エレベーター横の赤ランプ下と北側アトリエの扉下に設置。(裏表紙MAP参照)

※屋外・屋外消火栓は消防隊が使用のため使用不可。

- 1.安全ピンを引き抜く。
- 2.ホースを外し、火元に向ける
- 3.レバーを強く握る。



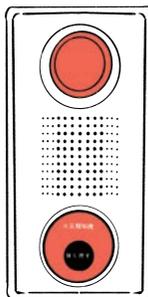
※火元から7~8m手前が目安。あまり離れすぎていると火への放射前に薬剤が尽きる。

[非常ベルの使用法]

非常ベルは、各階エレベーター横の赤ランプ下部に設置。

- 1.アクリル板の上からボタンを強く押す。
- 2.ベルが作動すると赤ランプが点滅。

押すことで2階の報知器で
「火災」を検知し、各階の非常扉が
自動で展開される。
この非常ベルや報知器は消防署に
連動はしていないため別途、
消防署への通報が必要。



[非常扉について]

火災発生時には煙の流入を防ぐため、
各階のエレベーターホールで防火扉が自動で閉まる。
閉まっても押して開けられるが、必ず閉めること。
中央階段は煙が充満するため、
エレベーターを背にしたとき右手側のアトリエへ移動し、
非常階段を使用して避難する。



[避難はしごの使用法]

9階から4階までは南側のベランダに避難はしごがある。

北側アトリエにいた場合は、アトリエ奥左手の扉から非常階段を使用する。

(南側:エレベーターを背にした時に左側になる側。)

(北側:エレベーターを背にした時に右側になる側。)

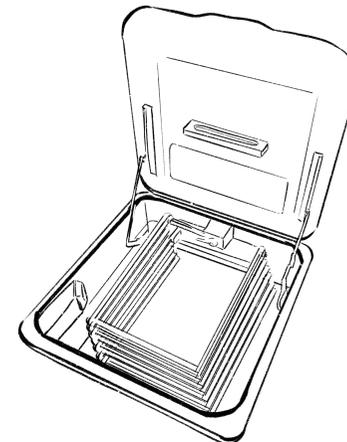
1.蓋を開ける

悪戯防止のプラスチックチェーンは
引きちぎれる。

必ず蓋がロックされるまで開くこと。

この時、下蓋も同時に開く。

※開口中は悪戯防止のブザーが鳴り続けるが、
無視して良い。

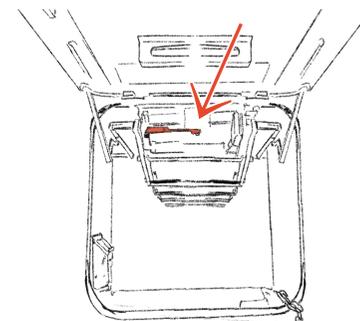


2.はしごを下ろす

直下に人がいないことを確認し、

赤いレバーを押すとはしごが降りる。

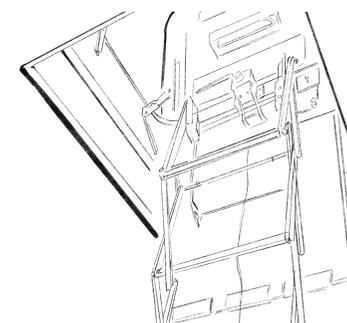
勢いよく降りるため、十分に注意する。



3.ゆっくりと下に降りる

足を踏み外さないように注意し、

手で掴まりながらゆっくりと階下に降りる。



[スローダンの使用方法]

301(3階南側)のベランダの壁に設置された箱に収納されている。

1.器具を取り出す

「避難器具」と記載のある箱(※1)を開け、器具を取り出す。



2.取り付け

取り付け器具(上写真左※2)を開けて引き出して固定し、先端に安全環を取り付ける。
安全環の止め金具を右に回し、確実に締め上げる。



3.リールを落とす

地上に人がいないことを確認し、地上へリールを落とす。
このとき、万が一にも人に当たらないように注意が必要。

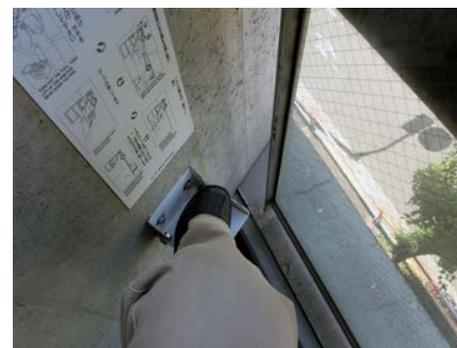
4.装着する

ベルトの輪を頭からかぶるようにして体に通し、胸の下に持ってくる。
この時、ベルトとベルトの輪の連結部にある赤いリングは体の前にくるように。
ねじれに注意し、赤いリングを体側に引き寄せて緩みをなくす。



5.地上に降りる

地上に落ちているロープと、装着したロープの2本を同時に持ち、踏み台に足をかけ、
体を外に出す。完全に外に出た状態でロープから手を離すと、自重でゆっくりと下降する。



6.次の人へ

下降した人間が地上に降りると、最初に地上へ落としたリールが上がってくる。
そのリールの中にもう一つのベルトの輪があるので、外して次の人が使用する。

救命処置

いざという時のために知っておこう

[出血時の応急手当て]

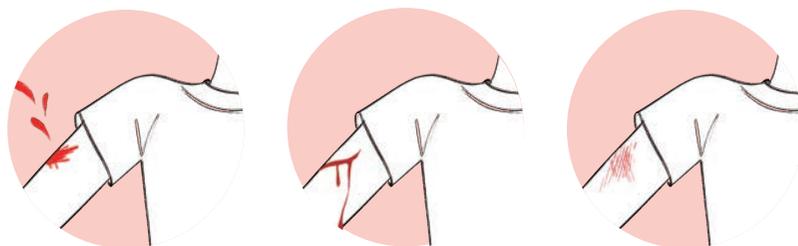
外傷により出血している場合。出血の種類によって適切な処置をおこなう。

生命に影響を及ぼす大出血でないか、確認。出血量が多いほど迅速な処置が必要。

※内出血の場合は判断が難しいため専門家に任せる。

- (！)出血の部位、種類、症状や程度を確認。
- (！)顔色、四肢の変形、ショック症状(冷汗、顔面蒼白、四肢冷感)はないか確認。
- (！)直接血液に触れない。ゴム手袋・ビニール袋などの着用を推奨。
- (！)飛び散る血液が皮膚に触れないように注意し、手当の後は必ず流水で手洗いを。

出血の種類



動脈性出血

鮮血がピューピュー、と脈に合わせて吹き出る

静脈性出血

赤黒い血が持続的に滲み出る

毛細血管性出血

擦り傷など

止血の方法(処置方法)

基本的に、専門家でない場合の応急処置は「直接圧迫法」を使用する。

[直接圧迫法]

用意するもの：清潔で厚みのあるガーゼやタオル(出血部を覆える大きさ)

※薄いものを複数重ねても良い

- 1.出血部にガーゼやタオルなどをあて、その上から手で強く圧迫する。
片手、両手、体重をかけて圧迫するなど出血量や出血部によって判断する。
- 2.圧迫しても血が滲み出る場合は、さらにその上にガーゼやタオルを重ねて止血する。はじめにあてたガーゼやタオルは外さないこと。

[AEDの使用方法]

- 1.意識を確認。対象者の肩を叩きながら「大丈夫ですか」と耳元で3回呼びかける。
- 2.口元に耳を近づけて呼吸音を聞き、また胸が上下しているかで呼吸の有無を確認する。
- 3.脈を確認し、鼓動を確認。
- 4.「人が倒れています、誰か来てください」と大声をあげ、助けを求める。
集まった人の2人に、はっきりと指をさして指示を出す。
→「あなたは119番通報してください」
→「あなたはAEDを持ってきてください」
- 5.心臓マッサージをおこなう。
胸の中央に両手を重ね、5cm沈む程度の強さで圧迫。
1分間に100回のテンポでおこなうこと。
6. AEDが届き、心肺停止状態が少しでも疑われるようであれば使用を開始。

※装着するとAEDの必要性を機器が判断してくれるため。

[AEDの使用方法]

基本的には蓋を開けると流れはじめの音声案内にしたがって操作すれば良い。

- 1.電源を入れる。もしくは蓋をあけると自動的に電源が入る。
- 2.電極パッドを心臓を挟んで対角に貼る。
※発汗がある場合は拭いてから。
- 3.自動的に心電図解析が始まり、必要であれば電気ショックを与える。
(機器が判断するので、それに従うこと。)
電気ショック起動スイッチを押したら、「離れてください」という音声案内に従って離れる。
※この時、周囲の人へ「離れてください」と大きな声で知らせる。
- 4.電気ショックの後、すぐに心臓マッサージを再開。繰り返しになるため、音声案内に従う。
- 5.救急隊が到着するまで休まずに続け、救急隊が到着しても取り外さないこと。
※心電図が自動的に記録され、解析等に使用される。